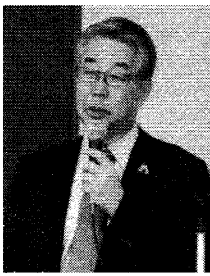


# 「光老化」啓発プロジェクト委員会 第1回メディアアセミナー開催



特定非営利活動法人 皮膚の健康研究機構(原田昭太郎理事長)内に設置された「光老化」啓発プロジェクト委員会は4月20日、東京・千代田区の御茶ノ水ソラシティー・カンファレンスセンターで、報道関係者を対象に「肌の光老化とは?適切な予防法と治療の実践」と題した第1回メディアアセミナーを開催した。

同委員会は光老化に関する正しい知識と予防方法に関する啓発活動に取り組んでいるが、今回の第1回セミナーはその一環として実施するもの。最初に東京女子医科大学皮膚科の川島 眞教授が「光老化

に関する基本レクチャー(しみ、しわ、日光角化症・皮膚がんと太陽光)のテーマで講演。紫外線のみならず太陽光全体が強くなるシーズンを前に、肌の光老化についての知識を披露し、すぐに実践できる予防法についても解説した。

引き続き、銀座ケイスキンクリニック院長の慶田朋子医師が「光老化予防と治療」のテーマで、①日焼け止め・化粧品

の正しい使い方(塗り方)、化粧品の正しい使い方(塗り方)、普段から心がけること、②光老化治療の最新線、気を付けないといけない症状、さらに生じてしまったしみ・しわの最新治療、気を付けておくべき皮膚症状などについて説明した。

「光老化」啓発プロジェクト委員会では、「光老化」とは紫外線をはじめ可視光、赤外線を含む太陽光線を浴びることによって皮膚に現れる老徴である

「しみ」「しわ」「たるみ」など、皮膚における光の害の表現型と定義。年齢を重ねて生じる自然(生理的)な皮膚の加齢現象とは、質的にも量的にも区別されるとしている。

また、光老化の延長線上に皮膚癌が存在する可能性があるほか、太陽光線を浴びる眼にも光老化は発現し、白内障などの発症にも関与しているという。その対策の重要性については、皮膚科学研究者、皮膚科医、化粧品・製薬企業、美容関係者に共通の認識が存在しているが、一般市民における光老化に対する認知・理解は極めて低いと見ている。

同委員会が実施した一般市民を対象とした調査では、「光老化」という言葉の認知率は5%にも満たない状況であり、光老化対策において基本的かつ汎用性の高いとされるサン

スクリーン剤に関して、日常的に使用しているのは女性が24%、男性に至っては3%と極めて低い結果を示した。さらに適正使用に重要なS

PF値、PAに対する誤った理解も浮き彫りになるなど、これらの認識の低さが、太陽光線を無防備かつ過剰に浴びてしまうことに繋がり、光老化を出現、加速。社会一般には「光老化」の定義はまだ明確とは言えず、その用語の使い方には統一性に乏しいところがあることは否定できないと判断。

そこで同委員会では、光老化対策を通じて、健康の増進に貢献すべき皮膚科医をはじめとする医療関係者と化粧品業関係者が統一した定義のもとで、「光老化」や「SPF」の意味、光老化予防と対策の必要性を一般市民に対して科学的に信頼のおける情報を正確に伝える活動が必要であると考えるに至った。光老化対策に早くから取り組んできた皮膚科医が中心となり、同プロジェクト委員会を発足。その活動の一環として、委員会ではメディア関係者を対象とした定期的なセミナーを企画した。

様々な業種や調査方法で、微妙に結果は異なるの

## 笑業界

歩後ろに引き、両手を前に組んで腰から身体を折る、いわゆる秘書挨拶付きだ。前にもこのコーナーで書いたが、ただか2千円や3千円の物を買っただけで、そこまで丁寧に頭を下げられてもかえって困る。出迎えられたり、見送られたり、声をかけられたり、というのが煩わしい。放っておいてくれ、というのがお客の変わらぬ願いなのだろう。

確かに以前は、ほとんど入っているのかと期待した品を受け渡していたのだから、中身はスカスカだったというのもよくある話だ。ただ、だからといって、カウンター越しに渡すようになってきた。出口まで持ってくる店もよくある。しかも「この店は対応が悪い」ということにもなりかねない行きだしたのか、左足を半

ま、確かに最近では業種を問わず、サービスが過剰包装気味ではある。あまりに立派なラッピングなので、どんな素晴らしい物が入っているのかと期待した品を受け渡していたのだから、中身はスカスカだったというのもよくある話だ。ただ、だからといって、カウンター越しに渡すようになってきた。出口まで持ってくる店もよくある。しかも「この店は対応が悪い」ということにもなりかねない行きだしたのか、左足を半